

11/29(金)

乳幼児健診休止相次ぐ

コロナ拡大 病気・虐待見逃す恐れ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、乳幼児の集団健診を一時休止している自治体が相次いでいる。が、毎日新聞の調査で判明した。健診は病気や虐待に気づく端緒となるだけに、影響が懸念される。「第3

波」が押し寄せる中、どう健診を実施していくのか、自治体は苦慮している。乳幼児健診はすべての1歳半から3歳を対象に、市区町村に実施が義務づけられている。厚生労働省は自治体に対し、感染が拡大した

パンフレットを手に、ひざをついて健診を終えた母親に子育ての悩みを尋ねる保健師（中央）＝東京都江戸川区のなぎさ健康サポートセンターで、谷本仁美撮影

4～5月に集団健診の延期を呼びかけたが、緊急事態宣言解除後の5月26日、工夫して集団健診を実施するよう通知した。調査は状況を把握するため、8～9月、県庁所在地、政令指定都市、東京23区の計74市町村を対象に実施した。

その結果、4～5月以外も実施していなかったのは1歳半健診で約4割の32市区、3歳健診では約6割の46市区に上った。今後も感染状況次第で休止の可能性があると回答したのは、半数を超える38市区。密集を避けるため、医療機関に委託する個別健診に変更していたのは8市区だった。

富崎市は6月に再開したものの、7月からの感染拡大を受け9月下旬まで休止した。担当者は「第3波を迎えて、遅れを取り戻せばいいのか」と頭を抱えている。大阪市は緊急事態宣言中、1歳半から3歳の健診は

延期したが、独自で行う生後3～4ヶ月の集団健診は続いている。過去には健診で心臓に穴が見つかり、緊急手術した子もある。担当者は「首筋わりや股関節の状態も確認するので、受診遲れば後遺症につながりかねない。保健師らと顔を合わせることとは育児相談や虐待予防につながる」と話す。東京都江戸川区は体制を見直して再開した。これまで

日本子ども虐待医学の井上登生副理事長は「個別健診は医師が記入した受診票でなければ、保健師は子どもに対する親の不適切なかかわりを見落

しやすい。病気の発見や虐待予防の観点から、感染対策を講じて集団健診の継続を勧めたい」と話す。
【黒田阿紗子、谷本仁美】



で一度に20～30組が集まり1時間半かけて実施しているが、4～6組に減らし15分に短縮したという。担当者は「第3波の影響で未受診者が増えなければいいが」と不安視する。

日本子ども虐待医学の井上登生副理事長は「個別健診は医師が記入した受診票でなければ、保健師は子どもに対する親の不適切なかかわりを見落